

大塔婆

大きな松の木に平和を願う文字が書かれたもので、木の根元に「虫塚」と呼ばれる砂山が盛られています。砂山を小さな子どもに踏ませると、「かんの虫封じ」になり健やかに成長できるといわれています。

お囃子奉納

百万遍念仏が終わるころに、次の当番地区のお囃子連が会場にやってきます。そこで、2つの地区のお囃子奉納(送り囃子・迎え囃子)が順番に行われます。現在は、かわいい子ども囃子連によって行われています。



高岡虫供養(昭和54年)



阿久比虫供養(昭和56年)



坂部虫供養(昭和58年)



卯之山虫供養(平成7年)



白沢虫供養(平成10年)



横松虫供養(平成28年)

訪れる方の幸せを願い、筆を走らせる



椋岡地区 土井 義男

大塔婆に銘文を書く話をもらったときは「まさか、自分が」と思いましたが、幼いころからお世話になっている地区のためならと、快く引き受けました。生の木に字を書くという経験はないので不安はありましたが、半紙を貼り合わせ、大塔婆と同じ長さの紙を作って何度も練習しました。

本番は一生懸命に、そして、訪れる皆さんの幸せや健康を願い、一文字一文字心を込めて書きました。無事に終わることができ、今はほっとしています。元気であれば、13年後も挑戦したいですね。

皆さんが虫供養の未来をつなぐ一員に

800年以上もの長い間、阿久比の人々が守ってきた虫供養。この行事からは、私たちの祖先が自然と共に歩み、その恵みを大切にしてきたことがよく分かります。祖先が大切にしてきた行事は、長年多くの人の努力と心意気によって受け継がれてきました。一部紹介しましたが、それは今も変わっていません。

これからもこの行事を続けていくためには、皆さんの協力が必要です。担当の地区の住民でなくても会場を訪れ、虫供養について知ってください。そうすることで、虫供養を未来につないでいく一員になることができます。